

# と き 3.11.あの瞬間から15年

平成23(2011)年3月11日14時46分頃に三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震(東日本大震災)が発生してから15年が経ちました。

当時の陸前高田市長(戸羽氏)が松田町出身というご縁もあり、震災直後から災害支援を行いました。

戸羽市長が著書に「震災を忘れないためにも桜を植えたい」と記したことをきっかけに、桜ライン311が結成され、桜の木を植え、避難の目安として後世に残していく活動が始まりました。

当時の松田町長(島村氏)が町の桜を寄贈したいと申し出たことから寄地区内に咲く河津桜を現地に移植することが実現しました。

これからも東日本大震災の「あの瞬間」を忘れることなく、被災地支援を行うとともに、日頃から町防災体制の充実を図ってまいります。



桜ライン311の詳細はこちら

## 令和7年度

### 下水道作品コンクール

環境上下水道課 上下水道係 ☎(83)1227

「令和7年度下水道作品コンクール」において3213点もの作品の中から、松田小学校4年生の(写真右から)北村日向大さん(書道の部・入賞)、加藤智樹さん(作文の部・優秀賞)、小澤伊吹さん(ポスターの部・入賞)が入賞しました。



## 第44回全国中学生人権作文コンテスト

福祉課 福祉推進係 ☎(83)1226

第44回全国中学生人権作文コンテスト「神奈川県大会・西湘二宮人権擁護委員協議会予選」において、松田中学校3年生の(写真右から)中村美優さんと馬場小和さんが奨励賞を受賞しました。



## 松だるま

松田町長 本山博幸

### 「根っこ(信念)」が大切(その2)

3月は、夢や希望に向かって羽ばたく準備期間でもありません。羽ばたく皆さまには、これまでお世話になった全ての方への感謝の気持ちを忘れずにいてほしいと存じます。

さて私の政治信念の「根っこ」でもある「米百俵の精神」について2月号の続きを記載します。

「米百俵の精神」を提唱した小林虎三郎は、長岡藩士たちに対して「頂戴した米を、二日か三日で食いつぶして、あとに何が残るのだ。国がおこるのも、ほろびるのも、まちが栄えるのも、衰えるのも、ことごとく人にある。この百俵の米をもとにして、学校を建てたい。この百俵は、今でこそただの百俵だが、後年には何万俵になるか、はかりしれないものがある。米俵などでは見積れない尊いものになる。その日暮らしては、あたらしい日本は生まれぬぞ。」と「教育第一主義」を唱え、救援された米百俵をもとに、「国漢学校」を設立した。後年、元帥海軍大将の山本五十六をはじめ、新生日本を背負う多くの人物を輩出するまでに至った、という逸話です。

この精神・教えから得ることとして「人づくりは国づくり、まちづくり」であることが理解できます。

これが私の政治信念の「根っこ」にあります。今後も「米百俵の精神」から学ぶ「チルドレンファースト」に関連する事業を推進し、松田町が掲げる目標の達成や課題解決を行ってまいります。引き続き「指導・鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、「松だるま」は、4月号から「まつだ日和」に看板を変え、私が日々感じている事や近未来の事など時事内容を記載してまいります。引き続きこれまで同様に「愛顧のほどよろしく願いたします。